

336A地区



2R-4Z

西条



2007年2月号

SAIJO LIONS CLUB

No. 359



災害木再利用事業 ~ベンチ作り~



災害木を使ってベンチを作った後、寄贈先の小学校にて

2006~2007 年度

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 国際会長プログラム | 「われわれは奉仕する (We Serve)」 |
| 336A 地区ガバナーズスローガン | 「友情の輪を広げ 共に楽しい奉仕」 |
| キーワード | 「フレンドシップ (Friend Ship)」 |
| クラブ会長スローガン | 「おもいやりと感謝の心で奉仕の輪」 |
| キーワード | 「地域とともに」 |

「災害木を使ってベンチを創ろう」に参加して



環境保全・保健福祉委員会

L. 加藤弘道

今回初めての委員会報告をさせていただきます。

まず原木は、西条ゴルフでいただきました。かなりじゃまになるのか、必要以上に太く長い物を、大量にいただきされました。かなり立派な木に見えるのですが、おそらく売り物にはならないんでしょう。これで加工の予定が大幅に狂い、寺田さんの案で矢野製材にあらかたの製材を依頼しました。

それから僕と同じく新入会員の近藤さんに、皮むき、製材、製作、組立をしていただきました。予想以上にいい出来ですすが大工さんです。「こんなだったら僕もほしいわ。」と言われるメンバーも多勢いたのですが、実際のところ材料タダでも、原価はかなりかかっていると思います。

しかし、内緒の話ですが原委員長は丸椅子を2脚ゲットしています。

後は皆様に協力していただきプレート付、焼印、市内各所への配達です。予想より早く終わったと思います。原委員長は見かけどおりの素晴らしい肉体で、腰骨折の安藤さん、いかにも事務系の山下さん、真鍋さん、四十肩の僕など、役に立ちにくいメンバーの中での運搬業務ごころうさまでした。又、終わってみればなんとなく楽しい委員会活動をさせていただき感謝しております。

最後になりますが、ご協力をいただいた関係各所の皆様、加藤会長はじめメンバーの皆様ありがとうございました。



見た目より重いベンチ



やっぱり西条だんじり担ぎ・・・



焼印とプレートを取り付けました



軟式野球の少年達もお手強い



サンドペーパーで加工中



- 【 ベンチ寄贈先 】
- 西条小学校・・・5脚
 - 神拝小学校・・・2脚
 - 市民の森・・・2脚
 - 星の里・・・2脚
 - 古川児童公園・・・1脚



大切に
使ってね

わたしの夢 ぼくの夢 』作文コンテスト

5年生児童を対象とした作文コンテストの要請は、キャビネットより突然やって来ました。加藤会長の取り計らいで、なんとか西条市内小学校にお願いし、作文コンテストに参加できる事になり、ホッと胸をなでおろしました。ところが、思いも寄らない嬉しいハプニングが・・・！市内9校よりなんと応募作品の数279点！！



委員長 仁後真貴雄

作品に目を通すと、どれも子供達の純粋な気持ちで綴られた力作ばかりでした。子供達の夢の作文に優劣をつけるのもおかしな話ですが、クラブメンバーに呼びかけ急遽、「作文選考会」を行いました。あまりに多くの数に初めは戸惑いを見せていたメンバーの顔が、しだいに、にっこりとした笑顔に変わり、感心したり、共感したり・・・。皆、子供達の思いにしだいに引き込まれていったように思いました。少し困惑しながら始めたアクティビティですが、こんなに大きな成果になるうとは、喜ばしい誤算でした。只今、特別に選んだ17作品を綴った文集を作成中です。急なお願いにもかかわらず、快く御協力くださった各学校の皆様には厚く御礼を申し上げます。メンバーの皆さんにも併せて感謝しております。ありがとうございました。



クラブ作文選考会の様子

「わたしの夢 ぼくの夢」作文コンテスト優秀作品集～会長の言葉～より抜粋

このたびは、西条ライオンズクラブ主催「わたしの夢 ぼくの夢」作文コンテストに御協力をいただきありがとうございました。西条市内9校の五年生児童より総数279点の作文が集まりました。心より御礼申し上げます。

さて、この最近、青少年を取り巻く様々な社会環境によるせいか、耳を覆いたくなるような事件が日々メディアから流れてきております。我々ライオンズクラブでは、このような状況に心を痛め、青少年が「自尊心の高い、責任感のある、自分も他人も大切にする健康的な人物」として成長する過程で今、子供達に何を伝えるべきか、人生の先輩としてどう導いていくべきか、考え推進していこうという運動が世界規模で盛んになりはじめています。

今回の作文のテーマは、「わたしの夢 ぼくの夢」。五年生の今の段階で思い描く将来について、作文を書くことで、自分の心と向き合い、自分を見つめなおす機会を持つことがとても大切であると考えたからです。実際、ライオンズクラブに寄せられた子供達の夢は、どれも希望に満ち溢れ、真っ直ぐな気持ちで描かれた力作ばかりで、正直言って、優秀作品を選出することは大変難しい事でしたが、敢えて十七作品を選びこの文集を作成する運びとなりました。

また、本人の思いのこもった文面をそのまま生かしたいと思いましたが、文集の作成はコピーと手作りに致しました。少し読みづらい所もありますが、御理解をいただきたく存じます。

子供たちは、日々進歩し、どんどん成長していきます。今回の作文で描いた夢は、来年にはまた違ったものになっているかも知れません。それでいいのです。子供たちは大きく羽ばたける力を皆、持っており、そして夢を叶えるための無限の可能性を秘めているのです。

我々、西条ライオンズクラブは、そんな青少年達を見守り、応援していきたいと思っております。

我が家の宝物



とうとう「我が家の自慢」、原稿依頼が広報委員の私のところに回ってきてしまいました。しかし、我が野間家にとっては世に自慢するようなお宝の一品があるわけでもなく、よくよく三日三晩寝ずに考えた結果、お宝はただ一つ、4人の子宝に恵まれたことぐらいかなという結論が出ましたので、啓佑(けいすけ)、隆佑(りゅうすけ)、駿佑(しゅんすけ)、陽佑(ようすけ) 我が家の男四兄弟について書きたいと思います。



思い起こせば16～7年前、結婚当初から子どもが欲しかったものの、なかなか子宝に恵まれず、あっという間に4年が経過。周囲からのプレッシャーもあり、焦る妻もとうとう不妊治療を始めようかという矢先に長男を妊娠いたしました。朝5:30頃妻の「プラスになってる、プラスになってる」という言葉でたたき起こされ、妊娠診断テストを片手に二人で抱き合っただけで喜んだことは今もよく覚えています。その後は計画もしていませんが、3年毎に男の子が次々と生まれ、四男を妊娠した時は、「今度男の子の確率は天文学的数字だろ絶対女の子に間違いない」と確信したものの、妻の「私は男の子しか生まれんような気がする」と言った予想の方が的中し、うれしいけれど・・・複雑な気持ちでした。四兄弟も、すくすくと成長し今は中学校1年生を頭に、末っ子は幼稚園年中組になりました。進学のことを考えると頭の毛も抜けそうなくらい悩ましいことですが、今の世の中、大企業に入ることが安定でもなくなってきました。私の希望としましては、長男は弁護士、二男は寿司職人、三男は？、四男はプロ野球選手になって欲しいなと親バカながら思っています。

少年野球に携わりながら、短期間で劇的に成長する子どもに出会い、子どもには無限の可能性があるんだなと感動いたします。その反面、家庭、地域で叱ってくれる人が居なくなり、友達同士のケンカもしたことがなく育っていった結果、叱られるとすぐ切れてしまう、そして一度切れると相手を傷つける限度がわからない子どもが確実に増えています。少ない経験の中で色々なことを参考にしながら、褒めたり、叱ったり、また褒めたり・・・、子育ては誰もが初心者です。

若葉マークなりに家族6人で毎日奮闘しています。



【編集後記】 春うらら、今年の春は少し急ぎ足にやって来ました。身も心もフワ～～～とするとところ、先日、西条高校の卒業式に参列して参りました。この頃の若者は云々と喧伝される中、ピシーとした心地良い緊張感を持った素晴らしい式を体験させて頂きました。

次代を担う若い衆、なかなか捨てたもんでありません。

山本新一郎

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R4Z
西条ライオンズクラブ

事務局 〒793-0027
西条市朔日市 779-8
西条商工会館 3F

TEL (0897) 56-3980

FAX (0897) 56-9251

E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

http: //www6.ocn.ne.jp/~saijo-lc/

発行者 会長 加藤誠也
幹事 明比紳一郎
PR・広報委員長 山本新一郎
編集委員 野間賢次郎・加藤 茂・藤田公道
妻鳥 健・伊藤隆治・近藤嘉博

例会日 第1・第3火曜日

例会場 黒猫レストラン

印刷 西条ライオンズクラブ事務局